ベトナム

活動規制の悪影響がサプライチェーンへ波及

SMBC Asia Monthly

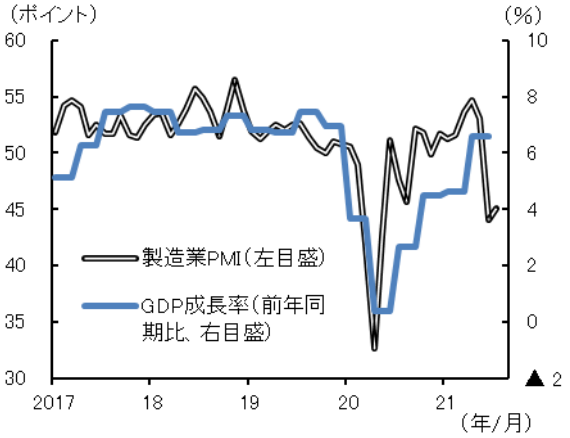
日本総合研究所　調査部
主任研究員　野木森　稔
E-mail：　nogimori.minoru@jri.co.jp

■7～9 月期以降に景気の急速な下振れの可能性

ベトナムの 2021 年 4～6 月期実質 GDP 成長率は前年同期比＋6.1％と、前期の同＋4.7％から加速した（右上図）。輸出が同＋24.1％（前期同＋17.0％）と大幅に増加し、全体をけん引した。

しかしながら、5 月以降、新型コロナ感染拡大が深刻化し、足元にかけては新規感染者数が 1 日あたり 9,000 人前後で高止まりしている。政府による感染抑制策の効果があがらないなか、活動規制は強化されており、景気が再び急速に悪化している。実際、7 月の製造業 PMI は 45.1 と、6 月に続いて景気判断の分かれ目である 50 を割り込んだ。「Google Community Mobility Reports」によれば、7 月に公共交通機関における人出は基準値（新型コロナ前の曜日別中央値）に対し▲70％まで減少し、8 月に入っても改善する兆しがみられない。ベトナムでのワクチン接種完了率は 1.4％（8 月 14 日時点）と極めて低いことから、今後も活動規制強化を選択せざるを得ないと考えられる。ベトナムの経済成長率は 4～6 月期までの順調な回復から一転して、7～9 月期に大きく減速する見込みである。厳しい経済活動規制が長引くことで、年内いっぱい低迷が続く可能性も高まっている。

＜製造業PMIとGDP成長率＞

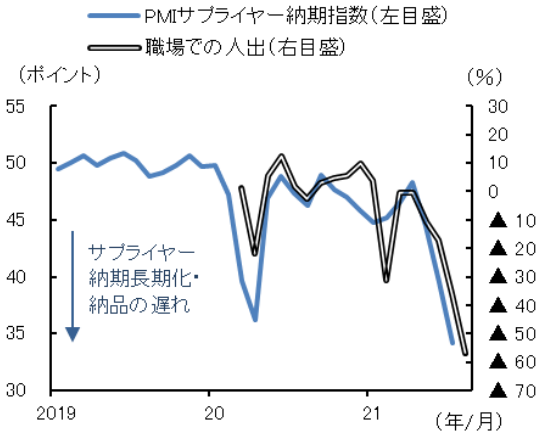


（出所）CEIC、IHS Markitを基に日本総研作成

■活動規制がサプライチェーンへも影響

ベトナムでの経済活動規制強化は、家計の消費活動だけでなく、製造業の工場稼働にも大きな影響を与えている。ベトナム政府は工場の操業継続の条件として、製造業の従業員に対し住宅地からの通勤を認めず、「労・食・住」を工場内に集約するよう求めているが、対応できずに生産停止に追い込まれる工場も多い。職場での人出（工場への出勤等）が急減しているほか、納品が遅延する傾向が顕著になっている（右下図）。その結果、世界の生産におけるサプライチェーンへの影響も出始め、トヨタ自動車は、ベトナムからの部品供給遅延を理由に、8 月に完成車工場の稼働一時停止を発表した。

＜ベトナムの職場での人出と納期遅延＞



（出所）Googleモビリティレポート、IHS Markitを基に日本総研作成

これまでベトナムは、チャイナ・プラスワンという動きのなかで、中国からの製造拠点の分散先に選ばれることで、世界のサプライチェーンにおいて存在感を高め、新型コロナに対しても厳格な活動規制を駆使して素早く対処し、封じ込めに成功してきた。しかしながら、足元では大きな試練を迎えている。工場稼働停止といった厳しい制限措置は、サプライチェーンを通じて他国にも悪影響が広がる恐れがあり、長期化すれば海外製造業の立地戦略にも影響を与え、ベトナム向け直接投資にも悪影響が及ぶ可能性がある。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。